



例祭後の歓談の様子

最明寺は開山800年!

現在、大井町金子にある寺院「如意山最明寺」は、建立当時は「西明寺」と記され、松田山山頂付近にありました。今年是最明寺の開山から800年を迎える記念すべき年です。

寺院の移転後も、最明寺跡は史跡公園として町の指定文化財(1971年指定)となっており、春は桜、桃、木蓮、レンギョウとさまざまな花が咲き乱れる絶景のスポットです。これからの季節に一度足を運んではいかがでしょうか。

☎ 教育課 生涯学習係 ☎ (83) 7021

最明寺の建立から移転までの歴史

- ①承久3(1221)年、浄蓮房源延が最明寺を建立。
- ②建長年中(1249~56)、北条時頼が更に堂宇を造立し、荘園を寄進。寺名を「蓮華王院 西明寺」とする。
- ③「応永(1394~1428)以後、屢々擾乱を歴て、殆ど頽廢」(出典『新編相模国風土記稿』)

関東では応永23(1416)年に上杉禅秀の乱が勃発し、永享10(1438)年には永享の乱が起きる。

そして、享徳3(1454)年には享徳の乱が開始され、関東は戦国時代へと突入。この様な状況下、最明寺は退廢していったと思われる。



史跡公園

- ④文明元(1469)年、賢昌が最明寺を今の松田山山頂に移転。

阿弥陀如来立像(お善光寺様)と巡行供養

松田庶子の地元には「最明寺が金子に移転する際、人々は善光寺如来を模した阿弥陀如来立像(地元民は「お善光寺様」と呼ぶ)をつくった。そして、その仏像を厨子に収めて家々を巡り、供養することを始めた」という伝承があります。この仏像の巡行供養は今日まで引き継がれています。

なお、この仏像は町の文化財に指定されました。現在、仏像は町生涯学習センターに安置されていますが、4月の例祭時には本尊として最明寺跡にまつられます。



最明寺例祭は庶子自治会が主催しています

庶子自治会は、かつて松田庶子戸主会と呼ばれ、自治会活動として最明寺跡の維持管理と祭典の主催などに当たっています。

最明寺例祭は文政13(1830)年に施餓鬼会というかたちで始まりました。最明寺の記録によると、小田原城主の許可を得た住職実弁が松田惣領・松田庶子両村と金子村の人々と共に始めたとのこと。この例祭を庶子自治会がいつ主催するようになったかは不明ですが、例年多くのお客様をお迎えして盛大に行われています。

庶子自治会では、平成の初めには200を越えた会員数が平成の末には100を切り、現在では60余名にまで減ってしまいました。自治会活動をとおして地域の伝統文化に主体的にかかわることで「自分達の地域の伝統文化を守ることを意味や楽しさ」を感じることができます。町の伝統文化の伝承のためにも、庶子地域にお住まいの方はぜひ庶子自治会にご加入ください。



例祭の様子



例祭準備の様子



阿弥陀如来立像が中央に安置されています

最明寺例祭 日時：4月10日(土)午前10時 場所：最明寺史跡公園

令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、一般の方のご参加はご遠慮させていただきます。最明寺史跡公園行きの無料送迎バスの運行もありませんのでご注意ください。